

株式会社二上

真鍮製品の原型制作内製化で
生活用品・建築分野の販路拡大

本事業における成果

- モデリングマシンを導入
- 原型制作の内製化で設計自由度と生産効率の向上
- 建築金物に特化した新ブランドの確立
- 加工技術力、開発力が向上

会社データ

- 創業 明治30年
- 代表 二上 利博
- 所在地 高岡市長慶寺1000
- TEL/FAX TEL:0766-23-8531
FAX:0766-26-5614
- E-mail futagami@futagami-
imono.co.jp
- U R L http://www.futagami-
imono.co.jp/
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 15名 (平成27年4月
現在)
- 取扱製品 真鍮鋳物（鍋敷、
栓抜き、ペンダントランプ、カトラ
リーなどの生活用品。ネームプレ
ート、スイッチプレート、レバー
ハンドルなどの建築金物、仏具）
の企画、鋳造、販売。



1 会社の概要

明治30年創業の真鍮鋳物メーカー。創業以来、高岡銅器の代表的な仏具「輪灯」などの仏具製造で長い歴史を持つが、市場ニーズの変化に伴い、現在は、平成20年に立ち上げた真鍮の生活用品ブランド「FUTAGAMI」、平成27年2月設立の建築金物ブランド「MATUREWARE（マチュアウェア）by FUTAGAMI」製品の企画・鋳造、販売をメインに行っている。砂型鋳物で作られた真鍮素地仕上げが特徴で、通常の鋳物製品と違い、研磨、着色などの加飾を施さず、鋳肌をそのまま活かし、経年変化を楽しむことができる。

生活用品ブランド「FUTAGAMI」

は、プロダクトデザイナー大治将典氏と組んで栓抜きや鍋敷を開発・製造。平成20年、「インテリアライフスタイル展」に初出展し、「オールアバウトスタイルストアアワード賞」を受賞して認知度を上げた。現在は国内のセレクトショップなど350社で取引がある。また、海外部門担当の協力会社を立ち上げ、国外約25カ国に製品を輸出販売している。

「熟成する金物」という意味を持つ「MATUREWARE」製品は、ネームプレート、レバーハンドルなど4シリーズの製造・販売を始めている。国内の建築家や設計事務所からの受注だけでなく、海外からもすでに取引の問い合わせがある。



FUTAGAMIの新ブランド「MATUREWARE」の建築金物シリーズ

2 補助金事業の内容

これまで鑄造に伴う原型や模型の制作は、主に手作業か外注、もしくは従業員が富山県総合デザインセンターまで出向き、機械を借りてプログラミング・製造していた。そのため製品デザインの自由度（品質）や、多品種少量化、生産の非効率性、製造時間に課題を抱えていた。今回の事業では、原型などの制作工程の内製化を図ることで課題を解決し、これまでの生活用品の分野の販売拡大に加え、新規に建築分野への販路開拓を目指した。

まず、鑄造原型の樹脂型をつくるモデリングマシン（切削加工機）を導入。建築金物シリーズの「MATUREWARE」ブランドの「ネームプレート」など、セミオーダー性の高い製品の原型製造にとりかかった。

3 補助金事業の成果

モデリングマシンの導入の結果、自社工場内で鑄物原型が制作できるようになったため、設計自



導入されたモデリングマシン



モデリングマシンで制作した樹脂型を使って砂型を製作する鑄造部門の従業員

由度や作業効率が上がり、マージンカットなどコスト面も大きく改善できた。そのために、必要とされる微調整や迅速な対応、現場の声をすぐに反映させることも可能となった。また、プログラミングとセッティングをしておけば、夜間や休日、通常勤務時間内でも無人で稼働させて作業を省力化できるため、他の作業や新商品開発に力を注ぐこともできるようになった。

また、一つひとつセミオーダーされ、細かなプログラミングが必要とされる製造に威力を発揮することにより、特に新規の建築分野の制作・販路拡大に寄与すると考えられる。

4 今後の展望

今後は「仏具・FUTAGAMI・MATUREWARE」の三本柱で、販

路開拓・拡大を目指す。当社は、単なる大量生産でなく、作る人、使う人のバランスを取り戻す「手工業、中量生産」を掲げている。真鍮の素地を生かした製品づくり、生産性、技術力を高め、これまで培ったブランドイメージを壊すことのない方法で、新商品開発や販売プロモーションを行っていく。

特に将来性が見込める「MATUREWARE」では、SNSや口コミを重視した宣伝方法や、建築家などプロ向けに絞った企画展や展示会で市場開拓を目指す。海外においても、窓口を一本化している協力会社とともに、北米を意識したUL規格の取得、総代理店の選定などの手続きを進めているところである。単に販路拡大を目指すのではなく、当社の理念を共有できる取引相手を選別し、地道に信頼のおける取引を獲得し続ける。

Column 高岡銅器

400年余り前、加賀藩2代目藩主の前田利長が高岡城築城にあたり、産業の振興を願って高岡市金屋町に鑄物工場を開設した。当初は日用品や農機具を製造していたが、その後、寺院や一般家庭の仏具を作るようになり、高岡銅器の美術的価値が全国に知られるようになった。細部まで装飾が施された美術品から、大きな仏像まで作り上げるその技術は、昭和50年、国の伝統的工芸品の産地指定を受けた。現代はクラフトデザインやインダストリアルデザインへの展開も活発に行い、世界的に有名なレストラン等で利用され話題になった製品もある。